

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム 絆

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370101362		
法人名	有限会社 絆		
事業所名	グループホーム 絆		
所在地	岩手県盛岡市仙北3丁目14-41		
自己評価作成日	平成30年11月12日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&Ji_gyosyoCd=0370101362-00&PrEfCd=03&VerSi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を改築した家庭的な雰囲気の中、入居者様と職員は家族と会話をするように「ただいま」「おかえりなさい」「行って来ます」「何処に行くの？」と挨拶を交わしています。入居者様が安心して穏やかに生活して頂けるように笑顔をやさしい環境で穏やかに暮らして頂けるよう職員一同が援助させていただきま。日常の散歩時や地域運営推進会議、絆夏祭り、地域の船っこ流し、さんさ踊り、運動会、清掃活動等の行事を通して地域の方々と交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議開催の都度、すべての利用者家族に案内し、積極的に家族の意見要望を聞く機会をつくり、また、利用料を事業所に持参していただくようお願いし、家族が事業所に来る機会を意識的に作り、積極機に家族・職員・利用者とのコミュニケーションを図っている。地域の一員として地域との交流や連携に努力し、町内会に参加して行事にも積極的に参加している。地域の伝統行事である舟っこ流しには、製作段階から職員が参加するなど、地域の信頼を得ている。昼食後には職員のコーヒータイムを設け、自由に職員が意見交換する場となっている。さらに、主治医やご家族等との連携のもと、看取りの取組みを進めており、ご家族からの高い評価が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム 絆

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム絆では長年社会に貢献してきた、入居者の方々の人格を尊重し、その人の持っている能力に応じて、可能な限り、地域で自分らしく、自立した生活ができる事を支援することを理念とし、職員全員が認識し実践している。	事業所理念を所内に掲示すると共に、毎月開催するケア会議で唱和し、職員間で共有している。年度当初に開催する運営推進会議でも委員の方々に理念について説明しているほか、入居当初に交わす契約書にも理念を記載し、家族の理解を得るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し、清掃活動、運動会、回覧板、赤い羽根募金、野球、お祭り等に参加して交流を深めています。	地元町内会に加入し地域の活動については、回覧板等により情報を得ることができている。職員は、町内で行われる清掃活動、船っこ流し、野球大会等の事業に地域住民と一緒に参加している。事業所主催の夏祭りでは、地域の方々のさんさ踊りを披露していただく等、利用者は交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行っている夏祭りに、仙北小鷹さんさ踊りを披露、利用者様、ご近所の方々も参加していただき交流をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、奇数月に開催、民生委員、地域包括センター職員、マッサージ師さん、ご家族様、介護職員が参加、毎月発行のニュースペーパーで施設の活動状況の報告意見交換をしています。	運営推進会議は、民生児童委員や地元のシルバーメイトなど、地域の代表者や家族代表などで構成され、年6回、事業所の食堂で開催している。すべての利用者家族に会議案内を送り、概ね3、4名ほどが参加してくれる。事業所が主催する夏祭りに合わせて運営推進会議を開催し、その際、居室で利用者や家族がお弁当を囲み楽しく過ごしていただく機会を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議の報告書を直接届け、また、わからないことがあれば、何度でも訪問し、直接確認し、連携を図るよう心がけて協力関係を築くようにしています。	事業所の担当者は、運営推進会議記録を市担当課に持参提出し、その際、市の担当者と情報交換を行っており、担当課職員とは顔なじみになり、協力関係が築けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロの手引きに基づき身体拘束廃止に努めている。個々の利用者の状況に応じ、身体拘束にならないように工夫している。	運営推進会議の日に、身体拘束廃止委員会や認知症サポーター養成研修も開催している。日中は、玄関を含めベランダや窓などの施錠はしていない。職員は、スピーチロックをしない等、事業所として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待につながる行為を、事例を使いながら研修会で学んでいる。申し送りやミーティングなどでも意見交換する機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度や活用方法について研修を行い理解に努めている。今年は管理者が、研修会に参加し、実習を兼ねて、再度職員と理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の事前に、入院先や自宅に訪問しご家族との情報収集を図り、契約時には、十分な時間を取り、丁寧な説明を心掛けている。改正がある場合にも再度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の面会時にも家族が意見や要望を言えるような雰囲気づくりに努めている。また運営推進会議でも、ご家族の要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。要望はプランに反映している。	家族には、運営推進会議の委員として自由に意見を述べていただけるよう配慮している。事業所に近い家族には利用料を持参していただくようお願いし、その際に職員ともお話しいただけるよう配慮している。入居後に利用者の表情が良くなり、面会が苦にならなくなったとする家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議はもちろん、日々職員との意見交換の場を作っています。その中で提案も再度検討している。	代表が毎月のケア会議に出席して職員の意見や提案を聴いており、職員も積極的に意見を出すようにしている。昼の空いた時間帯のコーヒータ임は、職員同士の意見交換の時間となっている。職員提案で各部屋のエアコン設置が実現するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケア会議には、必ず代表者が出席し、管理者から職員についての勤務状況を聞いて把握している。また意見や、要望も取り入れるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、個々の能力や希望に合わせ、できるだけ受講できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入し研修を通じて、交流できるように機会を設けている。また電話などでも連絡を取り合い、サービスの向上につながるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規の利用者様の情報を職員で共有し、アセスメントから、必要なケアや、要望について把握し、安心できるようなケアを提供できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・家族と面談して、ご本人の思いやご家族の希望を受け止め、早く施設の環境に慣れていただくように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所にあたり、ご家族や地域包括センター、入院先の相談員等から、情報を提供して頂き、今必要なケアを見極めて対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事を支え一緒に暮らしているという思いを感じて頂けるような関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては、施設に入っている、様々な機会を通じ、来所して頂き、ご本人を支える関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会も受け入れ交流が途切れないように配慮している。	事業所主催の夏祭りに家族を招待し、居室で利用者と一緒に食事をして頂き、家族との触れ合いの機会をつくっている。2か月に一度訪れる理美容師や毎月来てくれる傾聴ボランティアとの馴染みの関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が一堂に会する食事の時間や活動の時間に、利用者同士の関係を把握し、嫌な思いをしないように、笑顔の瞬間を過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設を利用したり、亡くなられた家族にも電話やお便りを送り、必用に応じて相談して頂けるように支援しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向については、一度だけでなく、把握できるような機会を作りケアを見直しできるようにしている。	職員は、利用者との日々の生活の中での会話から、また表情等を観察しながら、利用者の意向や希望を把握するように努め、また、家族の協力を得て把握した利用者に関する情報を話題の導線として、ケアに反映させている。こうして把握した利用者の思いや意向は、毎日の申し送りノート・ケースファイル等に記録し職員で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方などこれまでの暮らしを把握することで、ケアを見直す機会を設けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の生活パターンや心身状況など申し送りを通じて共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りの時間を利用して情報を共有し、ケア会議においても話し合い。計画モニタリングを行っています。その中で介護計画が変更になることもあります。	ケアマネージャーが計画案を作成し、月1回のケア会議で全職員が検討のうえ、ご家族の同意を得て決定している。モニタリングは申し送りノートや業務日誌などを基に3か月毎にケア会議で全職員で検討している。介護計画について、家族が来所した際に、その時勤務している職員が説明できる体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、日中、夜間の様子は細かく記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しもやっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応など、家族対応になっても、都合で同行できないときは職員が対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の身体の状態を把握し、行事への参加をしている。季節感や、歳時を大切に、安心安全に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を希望する場合は継続している。連携している医療機関に移る場合もきちんと納得して頂き、情報提供により適切な医療が継続できるようにしている。	ホームの協力医をかかりつけ医とする利用者が多く、協力医は月1回の訪問診療も行っている。通院はご家族の対応を基本としており、ケアマネ作成のメモを持参してもらっている。また、連携している訪問看護ステーションからも週1回の来訪がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の観察から必要時、連携している訪問看護ステーションに連絡し、受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、家族・利用者様にも安心して治療できるような支援と、病院関係とも連絡を取り合い治療の進行状況も把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居した段階で、重度化や終末期に向けた家族の希望や、施設でできる事の説明を行っている。	看取り指針を策定しており、重度化や終末期には、家族、主治医、職員等の関係者が話し合い、主治医の指導助言を得ながら、チームで支援している。昨年は、2件の看取り介護の実績がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やケア会議において急変、事故発生時の備えを確認している。。また消防署職員による救命救急の訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署員立ち合いで、火災・水害を想定した避難訓練時に行っている。盛岡市シェイクアウト訓練に参加、防災に対する意識向上に努めている。	年2回、消防署立ち合いによる避難訓練を実施している。市のハザードマップでは浸水危険区域に立地しており、職員は常に緊急時の対応を意識している。火災の際は屋外、水害の場合は2階への避難で訓練しており、消防署も了解している。防災マニュアルを見直し、地震、水害、火災対応のマニュアルを作成している。水や食料の他、反射式ストーブを災害用として備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の個性や、人格・プライド・プライバシーを尊重し、声掛けなどを工夫している。	トイレ誘導時などでは、羞恥心に配慮した言葉掛けをするよう工夫している。利用者との馴れ合いの中から、スピーチロックのような言葉使いになる場合もあることから、職員間で常に注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の悩みや希望を聞き出せるような環境づくりに努め、利用者様が自己判断できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に家庭的な雰囲気づくりに努め、一人一人の生活リズムに合わせた、生活リズムを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目に合わせた身だしなみ、ご本人の好みに合わせたおしゃれを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みや、食事の形態も考慮し、また季節を感じるような工夫をしている。	献立は、1週間分を職員が交代で作成している。朝食は、メインのおかずの他に職員が1品を工夫して加えるようにしている。外食を楽しむこともあるが、食べ過ぎることが多く、後で調整することが多い。家族や地域の方々と、みんなで餃子づくりをして楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分のイン・アウトを把握し栄養不足、水分不足にならないように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後ごとの口腔ケアを実施し、清潔に努めている。また歯科の訪問診療も受け、職員も口腔ケアについて学んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、事前の誘導で自立に向けた支援をしている。	布パンツ使用で2人が自立し、他はリハビリパンツとパット併用となっている。各人の排泄記録をもとにパターンを把握して定期的なトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者には、主治医にも相談し、食事の工夫や運動など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には入浴時間は決まっているが、利用者様の希望により変更も行っている。入浴時もゆっくり会話しながら、入浴を楽しむように支援している。	1日3人が入浴でき、最低週2回の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも可能である。入浴時の職員との会話を楽しんでおり歌を歌う方もいる。柚子湯や菖蒲湯などの季節感ある入浴サービスも行っている。職員は、入浴介護を通して利用者との会話を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人が、マイペースで過ごせるように、休息の時間もそれぞれ対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人が服用している薬の効用や副作用を把握している。変更になってもその都度申し送りで把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の、その方が楽しいと思えることを把握し楽しみと気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、近くの薬局等に外出の機会を設けている。日帰り温泉、チャグチャグ馬っこ、七夕祭り等の外出支援を行っている。また、家族との外出も定期的に行っている。	近所の薬局には利用者が買物を兼ねて足げく外出する場となっている。近くの川沿いにあるせせらぎ通りには、歩道やベンチが整備され良い散歩コースとなっており、地域の人が声をかけてくれる。七夕祭りやチャグチャグ馬っこ等の外出機会も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している利用者はいないが、一緒に買い物したとき、支払いなどを経験して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時、家族からの電話は対応できることを説明してある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段過ごす空間に危険なものがないよう気を配り、装飾で季節感を工夫している。室温、照明、換気にも注意をしている。	住宅を改装したホームであるため、アットホームな造りとなっている。食堂を兼ねたりリビングにはクリスマスの飾り付けがなされ、エアコンや加湿器で快適な環境が保たれている。コタツが置かれたスペースもあり、より落ち着きを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一般の民家を改修した施設なので、ハード面では狭いと感じますが、その中でも居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのある小物などを持ってきていただき、新しく用意して頂くものも、家族と相談しながら用意して頂いている。	各居室は、一般住宅を改装したものであるため、広さなどが異なっているが、ベッドとテレビ台、物置台が備え付けてあり、持ち込みの衣装ケースや家族写真の他、行事の写真や敬老会でのメッセージカードが飾り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住宅改修型の施設ではあるが、手すりなどで安全な環境づくりに努めている。		